

1. 趣旨説明

進行：齋藤真宏（旭川大学）

質問・疑問等については随時「Q&A」にご投稿ください。

本セミナーシリーズの趣旨説明

- 日本の教師教育を取り巻く環境の大きな変化：大学全入時代, 求められる「実践的指導力」, 教師教育の高度化と教職大学院の拡充, 免許更新講習, 教員養成コアカリキュラムの制定, 教職課程再課程認定・・・
- 教師を育てる専門職＝教師教育者への注目の高まり
- 教師教育者の役割, 必要な資質・能力とは何か？専門職としてどのようなふるまいが求められるのか？どのようにして自らの専門性を開発していくのか？より良い教師教育実践を行うために, 教師教育者はどのような研究をすべきか？
- アメリカやオーストラリアを中心に90年代後半から教師教育者によるセルフスタディが注目されるようになってきた。

本セミナーシリーズの趣旨説明

- セルフスタディを日本に紹介：ジョン・ロックラン著，武田信子監修（2019）『J.ロックランに学ぶ教師教育とセルフスタディ』（学文社）
- しかし，日本で実践する上で根本的な障壁…
 - － そもそもセルフスタディとは何なのか？
 - － セルフスタディの方法論とは何か？
 - － 実践事例はどのようなものがあるのか？
- 「教師教育者のためのセルフスタディ研究会（齋藤，草原，渡邊，大坂）」を立ち上げ，本セミナーでこれらを検討する
- 最終的には，『セルフスタディを実践する－教師教育者による研究と専門性開発のために－（仮）』出版を目指したい



本セミナーシリーズの構成

シリーズ企画の概要はこちらから。
<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/12528>

- 第1回 2020年10月4日(日) 14:00~15:30

セルフスタディの目的と**日本のセルフスタディ事例紹介**

齋藤真宏(旭川大学)・大坂遊(徳山大学)・渡邊巧(広島大学)

指定討論: 武田信子(元・武蔵大学), 草原和博(広島大学)



- 第2回 2020年12月6日(日) 15:00~16:30

海外セルフスタディ研究の紹介 佐々木弘記(中国学園大学)

日本のセルフスタディ事例紹介

山内敏男(兵庫教育大学)・大西慎也(京都ノートルダム女子大学)

指定討論: 佐々木弘記(中国学園大学), 木原成一郎(広島大学)



- 第3回 2021年2月7日(日) 15:00~16:30

海外セルフスタディ研究の紹介 金鍾成(広島大学)

日本のセルフスタディ事例紹介 渡邊巧(広島大学)・大坂遊(徳山大学)

指定討論: 大村龍太郎(東京学芸大学), 吉田成章(広島大学)



本セミナーシリーズの構成

シリーズ企画の概要はこちらから。
<https://evri.hiroshima-u.ac.jp/12528>



- 第4回 2021年3月7日(日) 15:00~16:30

● **済** 海外セルフスタディ研究の紹介 西田めぐみ(アイスランド大学大学院)
日本のセルフスタディ事例紹介 内田千春(東洋大学)・齋藤眞宏(旭川大学)
指定討論:西田めぐみ, 米沢崇(広島大学)

- 第5回 2021年5月9日(日) 15:00~16:30

海外セルフスタディ研究の紹介 武田信子
日本のセルフスタディ事例紹介 齋藤眞宏・大坂遊・渡邊巧・草原和博
指定討論:武田信子, 丸山恭司(広島大学)

- 海外セルフスタディ研究の紹介…海外の特筆すべきセルフスタディ研究事例を取り上げ, その研究の方法論的な特質や, 研究の意義について示す企画。
- 日本のセルフスタディ事例紹介…日本における大学ベースの教師教育者が行ったセルフスタディ研究の実例を示す企画。

本日の流れ(15:00-16:30)

1. 15:00-15:10 趣旨説明 齋藤真宏(旭川大学)
2. 15:10-15:25 海外のセルフスタディ研究の紹介
武田信子(元武蔵大学)
3. 15:25-15:55 日本のセルフスタディ事例紹介
齋藤真宏(旭川大学), 大坂遊(徳山大学)
渡邊巧(広島大学), 草原和博(広島大学)
4. 15:55-16:05 指定討論① 丸山恭司(広島大学)
5. 16:05-16:15 指定討論② 武田信子(元武蔵大学)
6. 16:15-16:30 全体討論とまとめ
7. 16:30-17:00 座談会(任意参加)

通常のミーティング形式にして、
全員が発言できるようにします。
関心のある方はお残り下さい。

- ・ 質問や意見のある方は随時Q&Aにご投稿ください。
- ・ どなた向けの質問なのかを明記頂けると助かります。
- ・ 発言希望の方は、投稿時にお名前をご記入ください。

2. 海外のセルフスタディ研究の紹介

武田信子（元武蔵大学）

質問・疑問等については随時「Q&A」にご投稿ください。

3. 日本のセルフスタディ事例紹介

RQ:自身の「セルフスタディ史」から見て、私たちは今回のセミナーシリーズをどのように意義づけてきたか？
➡なぜ私はセルフスタディにはまったか・取り組んだか・惹きつけられたか？

齋藤真宏（旭川大学），大坂遊（徳山大学）
渡邊巧（広島大学），草原和博（広島大学）

質問・疑問等については随時「Q&A」にご投稿ください。

研究の手続き

③～⑤がセルフスタディ(教師教育者としての自己の実践・信念についてたえず問い直す)



①セミナーシリーズ
1～4回の開催

対象者の
選定

- ・ 男性3名, 女性3名
- ・ 初等中等教員2名
- ・ 大学教員4名
(研究者教員+
実務家教員)

書き起こし
データの作成



書き起こし
データの作成



RQの生成



⑤RQについて個別に回答し,
再度協議して示唆を引き出す



②セミナー参加者・登壇者
6名へのインタビュー実施



③データを共同分析し, セミナー
を間接的にリフレクション



④論点について見出しを
つけて整理し協議

論点整理
のイラスト

④で使用した書き起こしの論点(4月2日のデータ, 登場順)

1. 前回の振り返りと今回のセルフスタディ(打ち合わせ)の目的共有
2. 草原・大坂・渡邊のセルフスタディの関心を持つ動機についての議論
(6名の分析と重ねながら)
3. セルフスタディをする動機についての分類(枠組み)の議論
4. 我々の置かれた文脈とセルフスタディの動機の関係についての議論
(草原・大坂・渡邊の3人はなぜセルフスタディを「副業」だと思うのか?についての議論)
5. 教師教育者の専門性とは何か?教師教育者の学術性はどこにあらわれるのか?
6. 海外の教師教育者と日本の教師教育者の「なりかた」の違い
7. 我々は自分の実践の起源と来歴をどのように捉えているのかについての議論

④で使用した書き起こしの論点(4月2日のデータ, 登場順)

- 8. 自身の研究や教師教育のスタンスとセルフスタディとの相性や距離感についての議論
- 9. セルフスタディとの出会い方の話→発表のRQや分析方法の話へ
- 10. セルフスタディが実践する当事者に与える影響と, 発表を聞く(読む)オーディエンスに与える影響についての議論
- 11. 渡邊の感じる自分の所属に対する違和感, ネガティブなイメージの話
→教師教育者の専門性・アイデンティティの捉え方の違いについての話
- 12. 教師教育者として苦しんでいる姿や教師教育者としての正当性が揺らぐような姿を被教育者に見せてもいいのか, という話
- 13. 教師教育者としての葛藤を開示するかどうかの基準の違いは, 何に起因するのかという話→それぞれの開示の程度についての話

④で使用した書き起こしの論点(4月2日のデータ, 登場順)

- 14. 広島大学のテニュアトラック=「駆け出し感」「半人前感」の制度化(でもその受け止め方は人によって違うという話)
- 15. 大坂・草原が「半人前感」から脱却し, 一人前の教師教育者・研究者になれたと思った時期と要因についての議論
- 16. 教師教育者としてのアイデンティティ形成における恩師からの影響についての議論
- 17. 恩師以外のロールモデルの具体例と, その意義についての話
- 18. 制度としての「助手」が半人前感を生み出しているという話
- 19. 改めて日本のセルフスタディが社会変革につながらない要因を考える(教師教育における政治性についての議論)
- 20. 我々自身が教師教育者として社会変革している姿を見せることが重要だが, それができていないのではないか, という話

④で使用した書き起こしの論点(4月2日のデータ, 登場順)

- 21. そもそも我々が教師教育者として社会や組織を変革している姿を見せても、果たして教師を目指す学生がその重要性を受け止めてくれるのだろうか、という話
- 22. 教師教育者のセルフスタディの「読者」は誰なのか、という議論

教師教育者としての 他者の語り方

1. 前回の振り返りと今回のセルフスタディ（打ち合わせ）の目的共有

2. セルフスタディをする動機についての分類（枠組み）の議論

教師教育者としての 自分の語り方

3. 草原・大坂・渡邊のセルフスタディの関心を持つ動機についての議論（6名の分析と重ねながら）

4. 我々の置かれた文脈とセルフスタディの動機の関係についての議論（我々3人はなぜセルフスタディを「副業」だと思えるのか？についての議論）

教師教育者の専門性とself-studyの学術的 位置づけ（日本と海外の相違）

5. 教師教育者の専門性とは何か？教師教育者の学術性はどこにあらわれるのか？

6. 海外の教師教育者と日本の教師教育者の「なりかた」の違い

教師教育者としての研究のあり方とself-studyへの 関わり方

7. 我々は自分の実践の起源と来歴をどのように捉えているのかについての議論

8. 自身の研究や教師教育のスタンスとセルフスタディとの相性や距離感についての議論

セルフスタディにおける自己開示の限界と研究発表のあり方

10. セルフスタディが実践する当事者に与える影響と、発表を聞く（読む）オーディエンスに与える影響についての議論

11. 渡邊の感じる自分の所属に対する違和感（アウェー感？）、ネガティブなイメージの話→教師教育者の専門性・アイデンティティの捉え方の違いについての話

12. 教師教育者として苦しんでいる姿や教師教育者としての正当性が揺らぐような姿を被教育者に見せてもいいのか、という話

13. 教師教育者としての葛藤を開示するかどうかの基準の違いは、何に起因するのかという話→それぞれの開示の程度についての話

22. 教師教育者のセルフスタディの「読者」は誰なのか、という議論

9. セルフスタディとの出会い方の話→発表のRQや分析方法の話へ

自分とセルフスタディ

教師教育者としてのアイデンティティの確立とロールモデル

若手教師教育者の感じる「半人前」問題

社会変革の主体としての教師教育者の（若き時の）地位

14. 広島大学のデュアルトラック＝「駆け出し感」「半人前感」の制度化（でもその受け止め方は人によって違うという話）

15. 大坂・草原が「半人前感」から脱却し、一人前の教師教育者・研究者になれたと思った時期と要因についての議論

16. 教師教育者としてのアイデンティティ形成における恩師からの影響についての議論

17. 恩師以外のロールモデルの具体例と、その意義についての話

18. 制度としての「助手」が半人前感を生み出しているという話

社会変革から見た日本のセルフスタディの特質と限界

19. 改めて日本のセルフスタディが社会変革につながらない要因を考える（教師教育における政治性についての議論）

20. 我々自身が教師教育者として社会変革している姿を見せることが重要だが、それができていないのではないか、という話

21. そもそも我々が教師教育者として社会や組織を変革している姿を見せても、果たして教師を目指す学生がその重要性を受け止めてくれるのだろうか、という話

本研究のResearch Question (再掲)

- RQ: 自身の「セルフスタディ史」から見て、私たちは今回のセミナーシリーズをどのように意義づけてきたか？
- RQに回答するため、「なぜ私はセルフスタディにはまったか・取り組んだか・惹きつけられたか？」という問いを設定。複数のデータや分析結果を参照しながら、各自で回答をまとめる。
- 以降のスライドで、その結果を紹介。

6人のセミナー
参加者へのインタビュー
の書き起こしデータ



我々4人のセミナー
リフレクションの
書き起こしデータ



我々4人のセミナー
リフレクションの
「論点整理」イラスト



齋藤のセルフスタディ史（出会うまで編）： 私にとって意義ある出来事，起源と来歴とは

- （アメリカの大学院時代）「自己理解と他者理解は相互に深く関係している」「自己理解と他者理解は社会的背景の理解も含む」
- （日本に帰国後）「あの子たちはやる気がないから。仕方がないのよ」（先輩教員）「確かにやる気がない。でも何でやる気がないんだろう。」「生徒たちが、楽しい、と思えるものは？」「なぜ私は社会科教員として民主主義や市民にこだわるのか？」（私）
- 大学教員に転じてから、現場教員のよい実践を見せても「すごい」「さすが現場の先生」で「思考停止」（学生たち）「なぜ自分でやってみよう、と思ってくれないのか」「そもそも俺は、なぜこの実践がよいと思うのだろう？」（私）
- 2006年 コルトハーヘンのリフレクションに出会う。「自分でやってみたらどうだろう？」→大学院博士課程ではあえなく玉砕「これは研究ではない」（指導教員）
- 2010年 日本教師教育学会で武田先生に出会う。
- 2012年前後 リフレクション中心の演習は空回り「何でこんなこと必要なの？」（学生たち）「・・・」（私）→学生と自分のギャップにどのように橋渡しをするのか？（教職課程の学生が社会人1名になった年もあった。）

齋藤のセルフスタディ史（出会ってから編）： 私にとって意義ある出来事，起源と来歴とは

- 2016年8月：ヨーロッパ教師教育学会（ATEE）において武田氏（当時武蔵大学）にセルフスタディの翻訳プロジェクトに誘われ，参加を即答する。帰国後Loughran, J. (2006). *Developing a Pedagogy of Teacher Education*を購入。実践改善だけではなく，個々が生きている現実を明らかにするとともに，メゾ，マクロをも視野に入れて探究できる可能性に魅力を感じる。
- 2017年2月 ロックラン招聘プロジェクトに参加（@武蔵大学）
- 2019年 編集担当として，武田先生，小田先生，佐々木先生をはじめとする他の先生たちと『J.ロックランに学ぶ教師教育とセルフスタディ 教師を教育する人のために』（学文社）を出版
- 日本教師教育学会でセルフスタディについて個人発表（2017;2019），佐々木先生（中国学園大学）と共同発表（2018），大坂先生（徳山大学），渡邊先生（広島大学）と共同発表（2020），異文化間教育学会では社会正義の観点から個人発表（2019;2020），ヨーロッパ教師教育学会のSocial Justice (RDC)でも社会正義と教師教育者の持つ権力性の観点からセルフスタディの意義を発表した（2018;2019）
- 2020年 広島大学教育ヴィジョン研究センターの連続セミナー「教師教育者のためのセルフスタディ：研究の歴史・思想から実際まで」担当教員（～2021年5月まで）
- 2020年度異文化間教育学会特定課題研究第3回公開講演会（2021年3月27日@Zoom）でAERAのSelf-study SIG前座長の[Pithouse-Morgan](#)教授（南アフリカ）と西田めぐみ先生（アイスランド大学大学院）を招聘
- 2021年 異文化間教育学会特定課題研究で社会共創と教師教育者のセルフスタディの観点から発表（予定）

齋藤はなぜセルフスタディにはまったか、取り組んだか、惹きつけられたか？

- 気づきを支えあうコミュニティがあつてこそ、自分自身の実践の改善につながる。そしてその取り組みが教員養成機関や学校文化の変容をもたらす。(第2回 山内先生と大西先生の実践から)「学生に自分の、あの一、できなかったことを託したいんですよ」(齋藤, 56)「自分の葛藤も多分ちゃんと表に出して、で、それを含めて学生たちが考えてほしい」(齋藤, 58)
- 一方で研究者が自己を対象にして行う研究の難しさ(第3回 渡邊先生と大坂先生の実践から),そして学生の成長を促す教師教育者の自己変容の難しさ(第4回 内田先生と私の実践から)もまた実感した。「(学内意思決定の際に学生の意見を聞かずに決めていこうとする教員と対立したエピソードを紹介しながら)学生から、変な意見,出てきたら,ちゃんと向き合わなければと思って。(でも)なおさら自分の居場所がなくなるなと思って」(齋藤, 70)
- 「変わらない」学生たちと(私も含めた)教師教育者・・・昨秋は教師教育者としての教育的判断を「停止」とこのセミナーで述べたが,(車を運転する際の)「一時停止」だと思うようになってきた。「大丈夫」と思っても,一旦判断を止めて学生が主体的に動ける余地を残すという意味である。
- セルフスタディが,教師教育,学校文化の変容につながるという確信は揺らがない。同時に社会変革につながるという思いも強く持っている。「一番隠したいところに本質がある」(草原, 47)
- セルフスタディは「運動につながる研究」

大坂のセルフスタディ史： 私にとって意義ある出来事、起源と来歴とは

- 2014年6月？：草原・岩田・渡邊氏らとシンガポールNIEを訪問。教師教育（TA）実践のリフレクション記録を書き始め、研究する。教師教育者かつ研究者としてのアイデンティティのあり方を（研究で問われることを通して）意識するようになる。
- 2014年度～2017年度：博論研究の一環としてTAを通して草原氏の授業に関わり、学生の学びの実態を調査する中で、教師教育者である自身の立ち位置や振る舞いの効果を考えるようになる。
- 2015年4月：草原氏の演習でCrowe編『Advancing Social Studies Education through Self-Study Methodology』の購読をする。self-studyという言葉を知覚するが、当時はその実態や意義がよくわからないまま。
- 2017年2月：Dr. Loughran氏・武田氏と交流し、講演を聴く。渡邊氏や栗谷氏のセルフスタディの発表を聴く。就職・修了間際だったので、自身が教師教育者としてどのようなことに葛藤するのか、それをどう乗り越えればいいのかなどの問題意識を持って話を聴く。
- 2017年6月～：初任（駆け出し）の大学教員として、複数名の同世代の教員とともにセルフスタディを行う。
- 2019年6月：渡邊氏のセルフスタディにクリティカルフレンドとして関わる。
- 2019年11月：全国社会科教育学会でセルフスタディの発表をする。発表後から、齋藤・渡邊・大坂の3名でセルフスタディを始める。また、中国四国教育学会で自身のセルフスタディの発表をする。自身が内面化した社会科教師教育のあり方を見直す機会になる。
- 2020年10月：齋藤・渡邊・草原氏らとともに、本セミナーを開始する。直前の日本教師教育学会での発表もあわせて複数のセルフスタディに関わる。
- 2021年2月：渡邊氏のEVRIでのセルフスタディに関わり、日本においてセルフスタディを実践・発表することの難しさについて考える。

大坂はなぜセルフスタディにはまったか、取り組んだか、惹きつけられたか？

- 「チームでやらないといけない質的研究を1人でやるのも無理ってなって、なんかちょっと、でも、何かしなくてなってきたときに、できることって、まあ、**自分を対象とした研究ぐらいならできる**なと。」(54)
- 「メインでやらなくても、クリティカルフレンドで参加したりとかする中でも、自分を振り返ることにつながっていくじゃないですか。この営みも結構いいなと思って。【中略】それはちょっと、まあ、なんかあれだけど、お得、**お得だなって**いう感じがあって」(54)
- 「なんかそもそも**原理的に**なんか**矛盾してん**とか、自分自身が、なんか、こう、持ってる課題みたいなのがあって、それと向き合わないといけないなみたいなことには、**普通の実践では気付けない**んですよ。なので、それを振り返る機会を与えてくれるという意味では、セルフスタディはとってもいいです。」(55)



◆研究する場所やテーマが変わったことでセルフスタディに取り組むようになった。

◆何か明確な目的を持ってセルフスタディをしているわけではない。

→授業改善だけなら他のやり方もある。研究成果は他の形で生み出すこともできる。セルフスタディをしなくても、所属する組織の中で影響力を行使し、変革していくことはできている。

◆研究成果の創出、自己の変革、コミュニティの形成など、いろんな要因が複合的に混じり合って「**楽しいから続ける**」というモチベーションにつながっている。

→お互いの実践を鏡にして話し合い、実践を交流し合ったり価値観の一致や相違を確認し合って自身の実践の改善のヒントを得る行為自体が楽しい。それで自己成長や業績にもつながるならなおさら良い。) 20

渡邊のセルフスタディ史： 私にとって意義ある出来事、起源と来歴とは

【ティーチングアシスタント／大学院生時代】

- 2014年6月：教師教育者という言葉と出会う。（草原和博，岩田昌太郎，大坂遊とシンガポールNIEを訪問する。教師教育（TA）実践のリフレクション記録を書き始め，研究する。）
- 2015年4月：self-studyという言葉を知るが，しっくりこない。（草原和博の演習でCrowe編のAdvancing Social Studies Education through Self-Study Methodologyの購読をする）

【助教時代】

- 2016年4月：日本女子大学着任。（教科教育学の研究者／教師教育者の役割・意味を問われる。）
- 2016年11月：初任（駆け出し）の大学教員として，セルフスタディを始める。以降，2021年の現在まで細く続ける。
- 2017年1月：武田信子らと出会う。
- 2017年2月：Dr. Loughranと出会う。セルフスタディの発表（1回目）をする。

【TT准教授時代】

- 2018年4月：広島大学へ異動。（教育学・教科教育学の研究者／教師教育者としての力不足を感じる。）
- 2019年6月：セルフスタディを意識的に再始動する。（必要感（袋小路に迷い込む／閉塞観の打破）にせまられる）
- 2019年11月：全国社会科教育学会でセルフスタディの発表（3回目）をする。論文化を試みるが中止する（辛くなる）。
- 2020年10月：齋藤眞宏・大坂遊・草原和博らとEVRIのバックアップによって，セミナーを開始する。
- 2021年2月：EVRIでセルフスタディの発表（6回目）をする。論文化を試みるが中止する（辛くなる）。



渡邊はなぜセルフスタディにはまったか、取り組んだか、惹きつけられたか？

- 「自分、自分に切羽詰まってるところあるからです。あとは研究したいからってことだと思います。」(11)
- 「役に立つというか、それ自体が、本業ではないので、これだけで全てやってるわけじゃなくて、何か自分のやってる仕事の中で振り返ったりとか、他の研究をしている中で悩んでることとかを、探すというか、自分って何だろう、研究者として大学教員としてみたい、教師教育者としてみたいなところを、研究の中でもいろいろ考えたり、ね、大学教育する中でもいろいろ考えたり、現場に行く中でもするので、それをちょっと考えるツールみたいな感覚はありますね。」(12)
- 「【中略】駆け出し研究者感があるんですね、まだ。【中略】なんか1年目感がずっとあって、それ役割ではないってのは確かに私もちょっと思ったり、思いますね。うん。」(34)



◆教師教育者／教育学研究者としての自分自身の教育課題，研究課題を見つけたい。

→教師教育者としての自己を対象にした取組が，学術研究として成立する可能性がある。

◆教育や大学には問題点もあるが，組織や制度の改革を直接出来る立場・状況にない。

◆Self-Studyは，教師教育者が自分をエンパワーしていくツールになるのでは？！

→Self-Study自体を疑いつつ，自分でセルフスタディをやってみる。教師教育者の育成にも活用できる。²²

草原のセルフスタディ史： 私にとって意義ある出来事、起源と来歴とは

- 2014年7月：シンガポールNIEの齋藤英介氏を訪ねた際、Self-studyを紹介される。書店にself-studyの概説書が並ぶことを現認
- 2015年4月：大学院の演習でCrowe編『Advancing Social Studies Education through Self-Study Methodology』を購読開始
- 2015年9月：オランダのDr.Swennenらがアムステルダム自由大学で行う教師教育者養成セミナーに参加。ライデン大学でDr. Berryと会談
- 2016年2月：オランダのDr.LunenbergとアメリカのDr.Croweを招聘し、カナダ滞在中の武田信子氏に討論者を依頼、広島大学の学習システム促進研究センター(RIDLS)の主催で「教師教育者の専門性」に関する国際シンポジウムを開催
- 2016年8月：ATEEで、シンポジウム：The Problems and Challenges That Teacher Educators Face in Japanを企画・発表
- 2017年2月：日本教師教育学会課題研究第2部会と連携し、豪のDr. Loughranを招聘し、「教師教育者のself-study」に関する講演会開催
- 2017年7月：広島大学にインキュベーション研究拠点教育ヴィジョン研究センター(EVRI)立ち上げ、教師教育者の研究部門を開設
- 2018年8月：ノルウェー科学技術大学を訪問し、教師教育者を養成する国家イニシアティブとしてのNAFOLの理念と運営を調査
- 2018年10月：日本教育大学協会研究集会パネルディスカッションで「教師教育者としての専門性の確立、EdDの歴史を引き継ぐ」を講演
- 2018年12月：ノルウェーのDr. SmithとオランダのDr.Swennenを招聘し、「教師と教師教育者をいかに育てるか」に関する国際シンポジウムを開催
- 2019年6月：アイスランドのDr. Guðjónsdóttirをオンラインで招聘、「self-studyを通じた教師教育実践史」に関する講演会開催
- 2019年10月：アイスランド大学教育学部を訪問。西田めぐみ氏らと交流。
- 2020年10月：日本教育方法学会の課題研究Ⅲで「教育方法学の教育方法学を、教育方法学者としてどのように考え、実践するか」を企画・運営
- 2020年9月：『International Handbook of Self-Study of Teaching and Teacher Education Practices』に、EVRIが日本の研究拠点として紹介
- 2020年10月：EVRIの連続セミナーとして「教師教育者のためのセルフ・スタディ：研究の歴史・思想から実際まで(計5回)」を開始
- 2021年5月：欧州のInfoTEDが出版する『Teacher Educators and their Professional Development Learning from the Past, Looking to the Future』に「日本の教師教育者の地位と研究動向」について寄稿

草原はなぜセルフスタディにはまったか、取り組んだか、惹きつけられたか？

- 「何が切羽詰まってる判断するかによって、どこを変えたいかというのは当然変わってきますよね。まあ、私はどちらかというと、初めは**広大やベえってところからスタート**してるので…」(9)
- 「私なんかは単純に教師教育者の研究方法であり、これをやることによって**研究者養成の在り方、博士課程の在り方が変われば**いいなぐらいに思ってたけど。」(9)
- 「私も**課題解決志向**もある一方で、どちらかというと、もう一つあって、やっぱり**ビジョン志向**っていうのもあって、こうありたい、こうしたいという思いも実は一方である。この**二つがなんかこう、拮抗するところで**変えたいというふうになりますね。どっちが先なのかっていわれたら、自分でも分かんない。」(33)



- ◆ 広大・教育学研究科のシステムを変えたい、他大学とは異なる特性を強化したい
- ◆ **教師教育ができる教育学研究者**、**教育学研究ができる教師教育者**を育てたい
- ◆ **Self-Studyは、上のねらいを達成する学術的な拠り所になるのでは?!と直感**
 - 世界の研究動向を追いかける、一線の研究者を呼んでくる、論文化する
 - 研究体制を組織化・制度化する、教師教育の当事者に直接的に問題提起する

セルフスタディのセミナーシリーズを草原はいかに意義づけるか

(1) 黎明期：日本のSSに対する教師教育者の意義付けが明らかになった

- A: よくわからない, 誘われて
- B: 自己成長・自己変革・技量向上
- C: 仲間づくり・コミュニティづくり
- D: 教育組織・学校文化への疑問
- E: 教育制度・社会規範の再構築

実際にはこのあたりが多い, とくに「各教科の指導法」の担当者(兵教・鳴教の教師教育で苦しんだ原体験をもつ草原は)大学院博士課程の指導で現行プログラムの制度・規範の限界や矛盾に気づき, DやEに向かった

(2) 教師教育者の問題意識がDやEに焦点化しにくい理由(わけ)がみえてきた

「教師教育を変えたら社会を変えることになるわけですよ, うん。例えば, それこそジェンダーの問題なり多文化共生の問題だったり, 格差の問題だったり貧困の問題が, 教員養成の場にダイレクトに反映してれば, うん, 変えることになるんだろうけど, そういう感覚がないよね。【中略】うん, そうですよ。教員養成の脱政治性です。」(47)



◆私(=教科教育学研究者)の教師教育実践の課題がメタ認知された

- 教科教育・教員養成の脱政治化・・・教科のあり方や授業づくりの方法論ばかり
- 「教社」のしくみが既存の不正を再生産していることに気づかない
男だらけ, 日本史(教育)が大好き, 日本語で教えることが前提の社会科教師の卵たち

本発表で言及した文献, 参考にした文献

- 小玉重夫 (2016) 『教育政治学を拓くー18歳選挙権の時代を見すえてー』勁草書房。
- 金鍾成・渡邊巧・川口広美・草原 和博 (2020) 「オーストリアの政治教育の教師は政治的中立性をどのように理解し実践しているか?ー日本の社会科教育の再政治化を目指してー」『社会科研究』第92号, pp.1-12。
- Loughran, J. (2006). *Developing a Pedagogy of Teacher Education: Understanding teaching and learning about teaching*. London: Routledge (Loughran, J. (監修・原著) 武田信子 (監修・解説) 小田郁代 (編集代表) 齋藤真宏・佐々木弘記 (編集). (2019). 『J. ロックラン に学ぶ 教師教育とセルフスタディ: 教師を教育する人のために』学文社)
- Nishida, M. (2020). At the dawn of revolution in teaching: A hybrid educator's prospect of self-study in Japan. *International Handbook of Self-Study of Teaching and Teacher Education Practices*, Springer, (pp.1521-1534).

4. 指定討論

丸山恭司(広島大学)
武田信子(元武蔵大学)

質問・疑問等については随時「Q&A」にご投稿ください。

5. 全体討論とまとめ

進行：草原和博（広島大学）

質問・疑問等については随時「Q&A」にご投稿ください。

今後に向けての示唆（政策提言）

1. 日本の教師教育カリキュラムや教師教育者への示唆

- 教師教育者は、教師教育に求められる使命観や自覚、社会正義等について自律的に議論し、倫理綱領等を明文化するべきである。
- 大学の人事制度・評価制度は、教師教育者のアイデンティティ確立や教育・研究活動を促進するように改善すべきである。
- 教師教育者は、政府の政策や所属機関の利害にのみ拘束されることなく、教育・研究等の自由が保障されるべきである。

2. 日本におけるセルフスタディの導入に向けた示唆

- セルフスタディは、教職大学院のスタッフ／大学院生や、教育委員会の指導主事等の専門性開発の方法の一つとして導入されるべきである。
- セルフスタディは、教職大学院の現職大学院生が取り組む研究の方法の一つとして導入されるべきである。また、教職大学院の教員は、同じ教師教育者として、現職大学院生のセルフスタディを支援する存在となるべきである。
- 教師教育者の教育活動に関する専門雑誌を発刊され、上記の研究活動が発表・評価される媒体が用意されるべきである。